

とうざん



有田町立有田小学校 校長 松尾 寛



校庭のコスモス

全校朝会で、読書の秋を奨めました！

季節が移り変わり、過ごしやすい秋になってきました。秋は、スポーツの秋、食欲の秋、芸術の秋…、そして、読書の秋と言われます。10月の全校朝会で、子ども達に読書の秋を奨めました。有田小学校は、児童玄関の正面に図書室があり、読書を促すのに適した素晴らしい環境です。有田っ子は、日頃から読書に親しむ習慣ができています。これからの秋の夜長に、読書や読み聞かせがお奨めです。

私からは、3年生の国語科の教科書に掲載された、『モチモチの木』を紹介しました。主人公の豆太という5歳の子どもが、普段はモチモチの木を恐れるおくびょう者でありながら、いっしょに暮らすじさまの体調が悪くなり、医者様を真夜中に勇気を出して呼びに行く物語です。その途中で、じさまが話してくれた、勇気ある子どもだけが見られる、綺麗なあかりが灯ったモチモチの木を目にします。結末では夜のモチモチの木を恐れ、結局一人ではしょんべんに行けず、寝ているじさまを起こしてしまいます。



この本は、斉藤隆介さんが書かれた文章に、滝平二郎さんの切り絵が添えられていて、読者を魅了します。同じシリーズで、『ふき』、『ソメコとオニ』、『半日村』、『三コ』などがあり、子どもから大人までを魅了する、素敵な物語です。

芸術鑑賞に向けた、ワークショップの開催！

芸術の秋として、11月9日(木)の午後に予定しています、芸術鑑賞会に向け、5、6年生を対象とした人形浄瑠璃のワークショップを行いました。人形を動かす子ども達と、台詞を言う子ども達に分かれ、プロの方から動きや発声を学びました。子ども達は、最初は戸惑っていましたが、動きや発声に慣れ、笑顔や歓声が見られ、本番に向けて素敵な時間を過ごすことができました。教えて頂いた劇団の皆さん、ありがとうございました。本番を楽しみにしています。



台詞の言い回しを練習したり、人形の操り方を習ったり、舞台を前にして台詞を言ったりしました。

シードマイヤー、チャリティコンサート！

先日、日曜日に有田小学校の図書室に設置している、ドイツ製のピアノ、シードマイヤーを使って、東京藝術大学在学中に結成されたトリオ・アコードの方々がチャリティコンサートを開いてくださいました。ピアノを弾かれた津田裕也さん、ヴァイリンを弾かれた白井圭さん、チェロを弾かれた門脇大樹さんの3人による素敵な演奏でした。あいにくの雨でしたが、約60名の方々に来場して頂き、雨音のように素敵な音色を耳と心を魅了されました。皆さん、ありがとうございました。

シードマイヤー自体は、多くの方がご存じのように、100年前にドイツで製造されたシードマイヤー製のピアノで、1926年（大正15年）6月13日に有田小学校に運び込まれたそうです。その際、上有田駅から馬車に積み込まれて、当時の有田小学校に届いたそうです。当時の町当局や小学校、地域の有志の方々が、「どうせ音楽教育に必要なピアノを買うのであれば、一流の高級品を買おう。」という考えから、門司三菱の会社を通じてドイツから直輸入されたそうです。当時の方々の教育に対する思いが強かったと思います。（町歴史民俗資料館のブログより抜粋）

そのピアノが新校舎建築で移転される際に、それまで使用する中で音が出なくなっていました。それを令和3年度に、学校創立150周年事業やドイツとの交流の中で見直され、クラウドファンディングなどで資金が集まり、元どおりに修理されました。

今回、翌日の焔の博記念堂でのコンサートを前に、本校の図書室とアートギャラリーで素晴らしい演奏を披露して頂きました。「エリーゼのために」や「ピアノ三重奏曲」などを弾いて頂きました。素晴らしい演奏を披露して頂いた、津田裕也さん、白井圭さん、門脇大樹さん、焔の博記念堂の岩崎理美さん、シードマイヤー保存会の西山智久さん、ありがとうございました。



西山さんの名司会で始まり、津田さんのソロ演奏や、三人による三重演奏に大きな拍手が送られました。

